

# 会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	平成28年度 嬉野市第2回食育推進会議		
開催日時	平成29年2月13日(月) 14:00～15:00		
開催場所	塩田保健センター2階会議室		
会議の公開の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	中村邦子委員、森サチ子副会長、田代洋輔委員 古河タカ子委員、森山恵美子委員、森恵子委員 喜多博委員、横尾彩委員、大島彩加委員 土井さとえ委員、上松初美委員	
	事務局	市民福祉部長、健康づくり課長、健康づくり課副課長2名 健康づくり課係員	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議レジメ</li> <li>・ 第3次佐賀県食育推進基本計画 冊子</li> <li>・ うれしの 朝ごはんレシピ集 冊子</li> <li>・ いただきます チラシ</li> </ul>		
審議等の内容	別紙のとおり		

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
審議経過	<p>1. 開会</p> <p>2. 市民福祉部長挨拶、食育推進会議会長挨拶</p> <p>&lt;会議の成立について&gt;</p> <p>嬉野市食育推進会議条例第6条2項 11人/14人で成立する。</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 平成28年度嬉野市食育推進事業報告について</p> <p>1) 食育推進事業について</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 楽しく役立つ食育講座は2回開催し、第1回目は県食育事業であるふるさと先生の事例発表と体験型食育事業「プランターで野菜を育ててみよう」を行った。第2回目は「早寝・早起き・朝ごはん」についての講話と調理実習を行い、嬉野市の課題である若い男性(20~39歳)の朝食喫食率を上げるために、朝食を食べる事の大切さを伝えた。</li></ul> <p>今年度の栄養教室は、塩田・嬉野各7回開催したが、塩田は参加者が少なかった。食生活改善推進員の会員数も年々減少しているため、いかに会員数を増やすことが出来るかが課題である。今年度初めての事業である59歳以下を対象としたヤングクッキングは、好評だったので来年度は2回の開催を予定している。</p> <p>嬉野市食生活改善推進協議会が、平成28年度厚生労働大臣賞を受賞した。</p> <p>2) 食育広報について</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 簡単にできる朝食レシピ【朝ごはんレシピ】をホームページと市報で紹介してきた3年3ヶ月分の冊子を作成。学校及び採用された方に配布予定。</li><li>・ 『嬉野市家族だんらん食事の日(毎月19日)』の普及啓発を防災無線で行っていたが、内容について再検討の要請があった。皆さんの知恵を拝借したい。防災無線を聞いたことがあるか。</li></ul> <p><b>【委員】</b> 聞いたことない。</p> <p><b>【中村会長】</b> 事業について興味・感想などあるか。</p> <p><b>【土井委員】</b> 朝食レシピをきれいにまとめていただいております。子ども達も喜ぶと思う。嬉野小学校は毎月1日のノーテレビデー・ノーゲームデーを、マチコミで配信している。しかし、家族団らん食事の日は入っていなかった。私も出身が武雄市なので知らなかった。できたら市と学校のシステムを合わせて行えばもっと普及するのではないかと。</p>	

審議経過	<p>【中村会長】家族団らん食事の日は、皆さん一緒に食事を食べましょうと言うことだと思うが、市役所の職員は知っているのか。</p> <p>【事務局】前日もそういったご意見を頂いたので、市役所では新着情報でお知らせをし部長会でも広報した。</p> <p>【中村会長】できればノー残業デーに実施し、今日はお父さんが作るよなどとなれば尚よい。</p> <p>【古河会長】毎月 19 日は食生活推進員でもビラ配りをしているが、ほんとに効果はあるのかと思っている。ビラも一人暮らしや高齢者に配っている感じで、行き届いていないような気がする。母親たちも子どもは塾などで忙しく、家庭でも夕食は別々に食べたりしている子が多い。月に一度でいいのでどうにか普及させたい。</p> <p>【中村会長】子どもたちが夕方忙しいのであれば、朝食だけでも一緒に食べるようにしてもよい。父親が忙しいのであれば、残業のない時に揃って食べるなどする。年に何回家族だんらんの日に食べる事ができたか数えたりするのも面白い。一緒に食べる回数が 2 回から 4 回になったり、ゼロだったのが 1 回になったり回数が増えていき、ゆくゆく定着するといいと思う。</p> <p>3) その他の事業取組みについて</p> <p>①食育の年間計画（市内小・中学校、保育園・幼稚園）</p> <p>②食育強化月間（6月・11月）取組み報告について</p> <p>【中村会長】この報告に載ってない事業で、他に取組んだことはないか。</p> <p>【古河会長】大野原小学校の 5・6 年生は、年に 2 回自分たちで献立を考えてお弁当を作っている。児童数が少ないので出来る事だと思う。失敗してもいいから、考える事や食べる事の大切さを知ることが出来る。塩田中学校にも食育教室を行ったが、礼儀正しい子が多かった。</p> <p>【森委員】最近、テレビなどで子どもの貧困が問題になっている。6～7人に1人が貧困という今日、食事を食べられる状況にない子もいる。嬉野市も食に関して小中学校でアンケートをして、担任が把握することができたということだが、どれくらいの状態で食べる事に苦勞して、行政でどのくらい手助けをしているかの統計・施策があれば知りたい。私は今、塾に行けない子どもをやっているが、貧困の中で将来に対する不安や進学できない子どもの将来の不安がある子がいる。食べられることはそれ以前の問題なので、嬉野市の実態が分かればよいと思う。また、それに対して食育がどのようなことが出来るのか。</p> <p>【中村会長】目的が違うかと思いますが。</p> <p>【事務局】統計的なものは子育て支援課で調査中なので、来年度の初めには報告したい。</p> <p>【中村会長】貧困に関して他に意見はないか。</p> <p>【土井委員】嬉野小学校も児童数が多いが、その中にもお弁当の日に持って来られない児童が数名いる。そのような家庭には再度通知を渡して、お弁当を持って来るようにしているが、その子達は祖母がお弁当を買って持って来たり、当日に</p>
------	--

審議経過	<p>学校を休んだりしている。この状況から貧困は確実に押し迫った問題だと学校現場でも感じている。ただ、お弁当の日があることによって普段関わりを持っていない親の意識が上がったり、子ども自身で作ったり格差が広がっている。不登校はいないが、家計が苦しい時しばらく学校に来られなかったりするケースもある。その都度、学校に来られて良かったねと声をかけるが、今後は手立てを考えていかないといけない。昨日テレビで放送されていたが、小中学校の貧困は他人事ではない。</p> <p>【中村会長】鹿島市では、貧困について社会福祉協議会が把握している。各家庭にある賞味期限内の食料品や、食べきれない食品などが無いかお寺の婦人部やボランティア団体などが呼びかけている。そこで集まった食品を貧困家庭に提供している。</p> <p>他に何か質問等はないか。</p> <p>【喜多委員】食育事業の取組みの中で、塩田小学校の「命をいただく」という授業で育てたアイガモを育てて調理するというのがあるが、その時の子ども達の様子を知りたい。</p> <p>【中村会長】私も気になっていたので経緯を知りたい。</p> <p>【喜多会長】もうひとつ、嬉野小学校の給食委員会による英語での献立紹介はいいアイデアだと思う。感心したのでぜひ取り入れてもらいたい。</p> <p>【土井委員】英語での献立紹介は、今年度4月から毎日給食委員が放送している。自然に耳に入るように、分かりやすい発音で一年生からみんなで言うようにしている。</p> <p>【古河会長】アイガモは業者に頼んで肉にしたのか。</p> <p>【喜多委員】学校で調理したのかどうか知っている方がいたらお聞きしたい。</p> <p>【事務局】一昨年塩田小学校はアイガモ農法で食育賞を受賞している。今年・昨年の状況は分からないが、一昨年の取組の発表を聞いた限りでは学校で調理したとのこと。昔は一般的であったが、今はそのような光景を見る機会はない。授業の時は涙を流す児童もいたとの発表だった。しかし、最終的には『おいしい』と言って食べていたとのこと。それから肉を食べられなくなったとの報告はない。食べ物に感謝するということから、児童も納得したようだ。</p> <p>【喜多委員】いい取組みだと思うが、対象者が低学年や幼稚園児だとトラウマにならないのか。</p> <p>【中村会長】私も何十年も前に、保育園位の子どもの鶏肉を食べさせた時、『この肉はお前が可愛がっていた鶏肉だよ』と教えたところ、可哀想だと言って鶏肉を食べなくなった。あんまり小さいとトラウマになるようだ。小学生くらいだと大丈夫だと思う。</p> <p>【喜多委員】私は十数年前酪農で牛を飼っていた。雄牛を肉牛として出荷する際に子どもからあの牛はどうなるか聞かれ、『いずれ食べられる』と答えたら、それから牛肉を一切食べられなくなった。今でも食べられない。命に関する授業は難しい。</p>
------	--

審議経過	<p>【事務局】今回は小学5・6年生が対象で、みんなで討議し決めたことなのでそのような弊害はないようだ。低学年だとやはり厳しいかもしれない。</p> <p>【喜多委員】小学生も高学年だから、自分たちで決めたことであれば理解しているようだ。</p> <p>(2) 平成29年度嬉野市食育推進計画(案)について</p> <p>1) 食育推進事業について</p> <p>【事務局】 資料 P.25 参照</p> <p>2) 食育広報及び食育推進に関する調査について</p> <p>【事務局】 資料 P.28 参照</p> <p>防災無線については、先程の意見を参考に検討していきたい。</p> <p>【中村会長】来年度の事業計画に取り入れてほしいものはないか。男性の方が興味を持っていただけると事業も進むと思うが。</p> <p>【田代委員】【喜多委員】十分な活動をされていると思う。これでいいと思う。</p> <p>【上松委員】第3次食育推進計画の中に、健康格差を含めて親の状況と子どもたちの貧困に学校現場で協力してアンケートなり食育の施策などで子どもたちの手助けができれば、何らかの調査が必要なので検討していただきたい。</p> <p>【森副会長】私は、デイサービスを利用できない人に食事を作って提供している。子ども達は部活などで、当たり前だった家族だんらんがなくなっている。食べる事は生きる上で基本になり大切なことである。子どもの貧困問題についても、家庭で余っているものを集めたりして私たちが出来る事もある。食が細くなっている高齢者も、節約のためといって3食から2食に減らしたり、2食分を3食にして食べたりする偏りがちな食生活をしている。</p> <p>【中村会長】そのような意識を改めてこのような会議で認識出来る事が、スタートになるのではないかと思う。貧困であっても情けはいらないと言う方もいるが、そこは素直に“ありがとう”と思えるような気持ちをお互い持たないと、提供する側の温かい気持ちも伝わらない。行政としても気を遣うところではないか。</p> <p>(3) 第3次嬉野市食育推進計画について</p> <p>【事務局】内容については、来年度皆様に御検討いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『第3次佐賀県食育推進基本計画』冊子参照。</li> </ul> <p>来年度はアンケート等を実施しながら、状況を調査しつつ計画の作成をしていきたい。</p> <p>【中村会長】県の基本計画を取り込みながら、嬉野市らしい計画の策定ができればよい。</p> <p>4.その他</p> <p>1) 子どもがつくる弁当の日実施状況調査について</p> <p>【事務局】2/15は今年度2回目のふれあい弁当の日。今年度どれくらい子どもが作る弁当の日を実施していただいたかの調査を、本日付で小中学校宛てに配布し</p>
------	--

審議内容	<p>ている。結果は来年度報告する。</p> <p>昨年度に引き続き、ほとんどの学校で実施して頂いており、今年度は塩田中学校でも計画しているとのことでそちらも併せて報告したい。</p> <p>【中村会長】この会議で子どもが作るお弁当の話が出た時は、県内ではほぼ例をみななかったが今はあちこちで実施している。子ども時代に身についた“食育”は生涯役に立つと思うので、今後根付いていくことを期待している。昔は“男子厨房に入らず”という考えだったが、現在は核家族が増えたことで子育て中も男性でも料理ができるようにという考えになっている。最近の本では、認知症の妻に高齢の夫が料理を作るというのを読んだ。男性も小さい時から男女分け隔てなく、自分が食べるものは自分で作れるようにしたい。</p> <p>2) 嬉野市食育推進会議委員名簿</p> <p>【事務局】塩田学校給食センターの梶原委員が産休に入られた。嬉野学校給食センターの栄養教諭も産休中で29年度の会議出席ができない状態にある。そこで来年度は小中学校の食育担当の先生（嬉野1名、塩田1名）に入って頂くように教育委員会に相談している。</p> <p>5.閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--